

# 耐震改修に「5億円」

## 運河・旧割烹新川屋



旧割烹新川屋正面（おだぎり市議の現場視察の状況は、「日本共産党流山市議団 小田桐議員の活動 23年1月21日」で検索してください。）



日本共産党 流山市議会議員

# おだぎりたかし

流山民報 (23. 10. 2) 小田桐090 - 8567 - 8858

「そのまま突き進まない」と表明するも、

9月20日、市議会第3回定例会決算審査特別委員会で、利根運河そばにある旧割烹新川屋（R2年度市が購入・市の方針に基づきR4年1月1日建物の大半を市有形文化財に指定）の耐震改修に要する経費が5億円にのぼることを市が認めました。費用を明確にしたのは議会で初めてのこと。流政会の渡辺仁二委員の質疑に対し、井戸一郎流山本町・利根運河ツーリズム推進課長が答弁しました。

## ツーリズムは「別格」：優先順位が間違い

旧割烹新川屋をめぐる質疑では、①購入時の建物資産価値は「ゼロ」。②建物調査や初見時、建築技師等の市職員は立ち合わなかった。③将来的な活用方法も未定等が発覚。利根運河を本市の観光（ツーリズム）の拠点にするという市長方針が先走り、慎重さと財政感覚を欠いてしまっています。

おだぎり市議は、決算委員会総括質

おだぎりたかし市議は、調査結果をR4年度中に知りながら、市長選時は一切、報告をしていないと厳しく指摘。「改修はゼロベースで見直しを」と市長に迫りました。

井崎義治市長は「当初の想定よりも建物の損傷が激しく、軟弱地盤のため、多額の費用を要する見積りとなった。他の改修方法など検討する。このまま突き進むものではない」と答弁しました。

疑で「限られた予算」という名で□ナ禍対策でも、物価等高騰対策でも、市民要望が切り捨てられる一方、ツーリズムには大盤振る舞い：優先順位が間違い、財政までゆがめている」と強く指摘しました。

「急病時、救急の病床が少ない」と市長が表明するなら…

# 市の責任を果たせ

市民から「子どもの命が守られるという受け皿を整備して欲しい」「子どもの発熱で問い合わせしても、どこも断られてしまう…」との悲痛な声は、医療現場や市保健センターで共有化され、重い課題となっています。

救急医療に対する市の取り組み		委託費等 1時間当たりの単価	施設の電気代等の負担
第1次救急	平日夜間診療所業務	3万3935円	市負担
	休日診療所業務	1万7128円	
第2次救急	第2次救急医療機関 指定業務	8643円	担当 病院負担
	平日夜間救急医療機関 指定業務	1万3750円	
	夜間小児救急 医療確保事業	6665円	担当 病院負担

第1次救急は、保健センター内で実施しています。

人口10万人  
当たりの病床数

県平均より400床も少ない

「人口比の病床数は、H27年当時、県平均968床に対し、本市は636床と332床下回り、R元年では県平均980床に対し、本市は578床で、408床下回っています」と、今年第2回定例会で高橋あきら議員の一般質問に、伊原理香健康福祉部長が回答しました。

また、第3回定例会の決算審査特別委員会では、公明党野村誠議員の質疑に、井崎義治市長は「新型コロナウイルス

又感染症対応における浮き彫りになった課題は、急病時、救急の病床が少ないこと」と答弁。「新病院の立地促進」を約束しました。

一方、おだぎり市議の質疑には、①新病院立地には複数年を要すること、②仮に立地できて、東葛病院以上の病床数がなければ県平均に到達しないことを認めており、認識と実際の施策展開に大きなかい離が生まれています。

豊かな  
財政力活かせ

矛盾拡大…放置は許されない

おだぎり市議の質疑に対し、「(党提案の)委託費等の単価を増額した場合、現在の市負担額731万円が2億3千万円となり、1億6千万円余の増額となり、R4年度末の歳出総額771億3867万円の0.2%としながら、「現在の委託費の単価等は見直さない」と表明。命の危機さえも、見て見ぬふりを貫く姿勢です。

おだぎり市議は「年間収支は、3年連続、21億円超の大幅黒字となり、加えて2年連続の15億円超の積み立てもできている。市民の血税を原資とした豊かな財政力を今こそ、市民のいのち守ることに使うべき」「歳出総額の0.2%というのは、月30万円の所得の世帯で換算すれば、月6000円のやりくりです。子どもや高齢の親の命を守るために、可能なやりくりもしないという姿勢は許せない」と話しています。